

# 大豆の栽培基準

(品種 えんれいのそら)

月	5月			6月			7月			8月			9月			10月											
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬										
	土づくり・排水対策			播種適期			草丈・節数増加期			花芽分化期			開花期 莢伸長期			子実肥大期			黄葉期		成熟期						
生育のイメージ	大豆 300 kg どり (収量構成要素) ○10a 当り株数: 14,000 本 ○株当り節数: 27 節 ○節当り莢数: 1.6 莢 ○莢当り粒数: 1.8 粒 ○百粒重: 28g			(6月下旬のポイント) ・排水対策で初期生育量を確保する。 ・土づくりで節数増加し、後半の徒長を抑える ・培土で根量増加を図る ・開花期まで根粒菌の増加につとめる ・雑草が多い場合は、雑草の種類、葉齢、大豆の葉齢を参考に除草剤を適期に散布する。			開花期 7/23 頃 2回目培土 本葉 4~5 葉期			1回目培土 本葉 2~3 葉期			開花期 7/23 頃 2回目培土 本葉 4~5 葉期			子実肥大期 ※排水対策の徹底で根粒菌増加を図る			成熟期 10/10 頃 刈り遅れの防止								
	(多収の条件) ・排水対策 ・土づくり ・適正栽植本数の確保 ・培土 2 回の実施 ・病害虫防除の徹底			3 cm			初生葉 子葉			初生葉 子葉			初生葉 子葉			初生葉 子葉			初生葉 子葉								
主な作業	① 排水対策 ② 土づくり			③ 種子消毒 ④ 耕起・碎土施肥 ⑤ 播種 ⑥ 播種時除草剤			⑦ 1回目培土 本葉 2~3 葉期 (播種後 20~25 日) に子葉がかくれる程度まで			⑧ 2回目培土 本葉 4~5 葉期 (播種後 30~35 日) に初生葉がかくれる程度まで			⑨ 基本防除 1 回目 ⑩ 基本防除 2 回目			⑪ 生育期除草剤の散布 (発生が見られたら)			⑫ 干ばつ時の畦間かん水 晴天が 3 日以上続いたら畦間かん水 (開花期~9 月上旬まで)			⑬ 排水溝の連結 (根腐れさせない)			⑭ 収穫・乾燥・調製		
	耕起・施肥・播種の一連作業は、好天日に一気に行う ○耕起深さは 15 cm 以上とし、根域をひろげよう。 ○播種深度は 3 cm を目標とし、浅まき深まきはしない			⑨ 随時防除 8 月初旬~9 月上旬 カメムシ類 (発生が見られたら) ⑩ 随時防除 7 月下旬~8 月上旬 ウコンノメイガ (葉が巻きはじめたら) ⑪ 随時防除 7 月中旬~8 月上旬 葉焼病 (発生が見られたら)			子実水分 20% 程度から刈取り開始 乾燥水分は 13% 未満に仕上げましょう			大豆の乾燥・調製は是非、農協の施設をご利用ください。																	

(品種 シュウレイ)

## 大豆「シュウレイ」栽培のポイント

○シュウレイの特性

- 1) 早晚性: 中の晩
- 2) 成熟期: 「えんれいのそら」より 5~7 日程度遅い。
- 3) 主茎長: 「えんれいのそら」よりやや長いが倒伏は少ない。
- 4) 葉の形: 槍型 (長葉)。
- 5) 収量: 最下着莢位置が高く、難裂莢性で、収穫ロスが少ない。3 粒莢の割合が多い。収量が安定して高い。
- 6) 品質: 大粒比率が高く、百粒重も重い。「えんれいのそら」よりしわ粒の発生が少ない。
- 7) 用途: タンパク質含有率が高く (えんれいのそら並み) 煮豆や豆腐原料に適する。

○栽培上の注意点

- 1) 裂皮粒がやや多い。
- 2) 色浅未熟粒の発生がみられる。
- 3) 葉焼病の発生がみられる。
- 4) 成熟期の茎に黄色味が残りやすい。



裂皮粒

色浅未熟粒

葉焼病

### ■播種の目安

播種時期	目標栽植本数	播種量の目安
6 月上旬	14,000~16,000 本/10a	5.3~6.0 kg/10a

えんれいのそらに準じる  
基本防除えんれいのそらに準じる。

### ■施肥、培土

### ■病害虫防除

### ■随時防除

### ■収穫

葉焼病	防除時期 (発生初期)	薬剤名	散布量 (10a 当り)
	7 月中旬~8 月上旬	Z ボルドー	500 倍 薬剤 300g+水 150l

ほとんどの株の莢が褐色、子実水分 20% の以下より開始する。



「えんれいのそら」に比べ大粒比率は高い  
百粒重は重い  
しわ粒の発生は少ない

葉の形は槍型